

アカデミー通信

発行者: アカデミー学院
責任者: 舟田 謙二
254-903 平塚市河内 520-1
TEL 31-6831 FAX 35-1690
URL <http://www.academygakuin.com>
HOTLINE: jfunada@gmail.com

かゆいところに手が届く

地球温暖化により、花粉症のシーズンが年々早まってきているようで、今年ももうすでに始まったようです。私は花粉症はないのですが、アレルギーで最近夜寝ていて、膝から下のふくらはぎやすね、足首の部分がものすごくかゆくなるのがよくあります。皮膚が乾燥するこの時期、いつもなります。

一旦かゆくなり始めるともう我慢できなくなり、寝ていても無意識のうちに掻いてしまいます。ところが、掻いてかゆみは収まるのではなく、さらにかゆくなりまた掻く。これの繰り返しです。そこで仕方なく起きて、枕元に置いてある「乾燥肌の治療乳液」なるものを、そのかゆい部分に塗り取ります。しばらくするとかゆみは収まり、またそのあとにはぐっすり眠れます。

寝ている時に、起きて薬をつけることはとても面倒で、最初はできる限り我慢して、無意識にかいていたのです。そして、かいている時間が長くなる、後で肌は赤く腫れてかき傷が残り、痛くなります。そんなことなら、もっと早くに起きて薬をつけたいのに、と思うのですが、ついついかいてしまうのです。

「かいたら後で痛くなる」ということがわかってはいるのに、これと同じようなことを私たちは日常生活の中でもよくしています。子どもの頃、ものすごく流行った植木等の歌、「わかつちやいるけど、やめられない」というやつです。勉強しなければだめだ、というものはよくわかってはいるけど、遊んでしまう。そして試験があり、答案が戻ってきて「しまった」というのも同じです。また、友達同士の喧嘩もそう

ならば、親の子育てにおける「叱ることと甘やかすこと」も、兄弟関係や夫婦関係、職場における人間関係などもそうです。「今、ここでこれを言っただめだ」ということがわかっていながら、黙ってやらせついで言ってしまう。そして案の定、後で痛い思いをし後悔する。おそらく、誰でも経験していることではないでしょうか。人間にとつて一番難しいのは、自己コントロールです。

それではどうすればよいのか。先ほどのかゆい時につける薬があるように、ちゃんとそれぞれにふさわしい方法があります。私たち素人が自分の考え方ややり方でやっていると失敗するより、かゆみ止めの薬をつけるように、ひどくない範囲に正しい方法で処置することが大切なのです。そのために、医者だけでなくカウンセラーもいるし、また身近なところには、同じことをすでに経験し、その問題を乗り越えた先輩たちがいるので、それらの人たちにアドバイスを求めるわけです。

この世の中、みんなお互いに助け合って生きていけるようになっていきます。自分が何かの問題で苦しんでいる時、助けてくれる人がいるように、あなたの周りにもあなたの助けを求めている人、必要としている人がいっぱいいます。そのような人のニーズに気づき、手を伸べて助けられるような者になりたいものです。これは教育の目的そのものでもあります。自分さえ良ければそれでいい、という自己中心的な考え方や生き方ではなく、お互いに助け合っている者、かゆいところに手が届くような者になりましょう。



担当 清田奈南講師

【低学年クラス】

低学年クラスでは、「作文が得意になる書き方」、「ろうそくのヒミツ」、「都道府県のカタチ①」、「都道府県のカタチ②」を発見しました。「作文が得意になる書き方」では、みんなの大嫌いな「作文」に挑戦しました。「作文を書いてみよう！」と言ったらみんな一斉に「えー！やだー！」。「作文はたくさん書くことを思いつかないし、何から書いたらいいかわからないから苦手」とのことでした。でも、わくわく発見クラブなら大丈夫。「さあ、たくさん書きなさい、」

わくわく発見クラブレポート⑧

※「どのくらい(またやりた)と思った、など」楽しいと思っただけを考え、書くことにしました。このように、「何を」「どうやって」書けば良いかを理解すれば、あとは自分の体験に内容を添えて書くだけになります。作文が苦手な子どもたちでしたが、授業の後半には全員が一生懸命鉛筆を進め、最後には「まだ！もうちょっと！」と自分の気持ちを一生懸命書き表していました。作文が「楽しい！簡単！」だと思えるようにさまざまなコツを発見しながら、深い考えを書けるように作文を書く機会を増やしていきたいと思えます。「ろうそくのヒミツ」では、ろうそくを使って2つの実験を行いました。1つめは、ろうそくを立てて水を入れたお皿を用意し、ろうそくを

く！「これはいいですね。」「どうやら上手にたくさん書けるのか」研究しました。発見したコツは「書くことを先に決めること」。書きながら続きを考える生徒が多いのですが、そうすると文章の意味がつかなくなってしまう。

今回は「お正月に楽しかったこと」をテーマに①いつ、②どこで、誰と、③何をしたらか、④そのときの会話や様子、を順番に書くことにしました。それぞれ思い出しながら書き出し、それからつなげて作文にすることで、すらすらと書くことができました。また、低学年の子どもたちにとつては自分の気持ちや考えを書き表すことが難しく、「楽しかった」「うれしかった」で終わってしまっています。今回は「楽しかった」だけでなく「どんなことか」「楽しいと思っただけか」※



【高学年クラス】

高学年クラスでは、「作文が得意になる書き方」「カメラのしくみ」を学びました。「作文が得意になる書き方」では、読者が惹きつけられる文章の書き方を研究しました。今回は冬休みの出来事を「会話文」から文章を始めることで「読みた！」と思わせる文章を書くことにしました。「痛つ！なにをするのよ？」私は叫んだ。「こんなふうに作文が始まったら、何が起ったのかを知りたくなって、続きが読みたくなります。高学年では、「たくさん書ける」「自分の考えを深く書ける」だけではなく、文章をわかりやすくする工夫や、

読者が惹きつけられる文章を書く工夫も取り入れていきます。自分の考えを筋道立てて説明する力は今の入試や社会で求められている力です。「文章を書くのが面倒だから苦手」でもつたない！少しでも楽しみながら自分の考えを表現する練習がたくさんできるように、さまざまなテーマで作文に挑戦していきます。作文検定への挑戦も考えています。

「カメラのしくみ」では、牛乳パックをボディに、虫眼鏡をレンズにした手作りカメラを製作しました。1月の最終週には完成し、実際に感光紙を使って撮影に挑戦しました。1回目は残念ながら上手く写すことができませんでしたが、これから原因や上手く写す工夫を研究し、手作りカメラでの写真撮影を成功させたいと思います。

【四字熟語】

1月の四字熟語は「冷却期間」「不可抗力」「精神統一」でした。東大脳ドリルでは、低学年ではことばの意味調べを、高学年では論理力を鍛える「虫食い(虫食い穴)がある部分」を前後の文章から考える「問題」に取り組みました。一度経験したことを何度もくり返すことが知識を定着させるコツです。ご家庭で何度もくり返し使えるよう、会話の中に四字熟語を取り入れていただけますと幸いです。

入塾説明会・父母会

来る2月9日・16日の入塾説明会・父母会では、学院長の挨拶に始まり、アカデミー学院の特徴、目指す教育など全体像をお話しし、それに続いて副学院長の方からパワーポイントを使った小中学生の各クラス・コースの具体的な説明をいたします。その後、お茶の時間をはさんで清田先生の方から、キッズクラブ英語、公中検(中高一貫校対策)クラス、わくわく発見クラブの紹介があります。わくわく発見クラブは、これぞまさに「アカデミー学院」というような奇抜なアイデア満載の教科横断型クラスです。実験をしたり、実験の結果についてみんなで議論したり、物を分解したり作ったり、また、名画鑑賞や詩や俳句の暗唱、作文・読書感想文、新聞作り、四字熟語を覚えて使ったりなど、楽しみながら本物の力がつき、大人になっても生涯役立つクラスです。(上の「わくわく発見クラブレポート⑧」参照)説明会終了後、個々のご相談にも応じます。また、まだ履修していらつしやらないクラスのお申し込み手続きをしていただくこともできます。1か月無料体験もありですので、ぜひお試しください。

アカデミー学院は今年、創立25周年を迎えます。これを記念して、新規入塾者の方は入塾金1万円(税抜)無料のサービスがあります。このほか、お友達紹介キャンペーンで、紹介者の方、および新規入塾者の方に、図書カードまたはQUOカード2000円分のプレゼントもありますので、ご利用いただけますと感謝です。